

仲間作りから始まり個々の進路実現へ 伝統校の新しい挑戦「未来航路プロジェクト」

— 岡山・県立 岡山操山高校 —

「高い志」「確かな学力」「豊かな心」を教育の3本の柱として掲げる岡山操山高校。
そのなかのひとつ「高い志」を育む取り組みの中心となっているのが総合的な学習の時間「未来航路プロジェクト」。

自己理解と他者理解を深めコミュニケーション力を高めながら、
学ぶ目的や将来の生き方を考えることを促す、独自のプログラムとなっている。

取材・文／永井ミカ

● 実践のKeyword

総合学習

コミュニケーション

課題研究

小論文

ディベート

高大連携

百余年の伝統をもつ進学校が
中高一貫校として再スタート

岡山操山高校は1900年開校の岡山県高等女学校を母体とする県内有数の伝統校。また進学校としても名高く、東大、京大といった難関校を含む国公立大学に毎年120人前後が進学している。

同校は伝統的に学年のカラーが強い学校だという。進路指導に関しても学年それぞれが特色を打ち出し取り組んできた。また、行事などが盛んで「仲間作り」を大切にしている校風があるそうだ。

県内初の試みとして県立中学校を開校し併設型中高一貫校を作るという構想がもち上がったとき、高校内にプロジェクト委員会が発足。中高の接続(図1)を意識しつつ中学校と高校のキャリア教育を充実させようという方針が決まる。総合的な学習の時間を利用した中高のキャリア教育の呼び方として、ある学年が発行していた小論文通信「未来航路」を利用して、「未来航路プロジェクト」という名称にした。

02年、中学校が開校し未来航路がスタート。中学1年は「岡山のことを知ろう」、2年は「日本のことを知ろう」、3年は「自分の課題を追求しよう」をテーマに、最終的に卒論を書くというプログラムだ。

翌年からは高校でも未来航路がスタートするが、学年団がその都度いいと思うものを取り入れる形で実施されており、なかなかプログラムは完成しなかった。教材会

社が作った既存の進路学習プログラムを丸ごと取り入れることも検討してみたが、操山の生徒の実情には合わなかった。また部、キャリア教育に懐疑的な意見もあり、すぐには一つの方向性にはまとまらなかったためである。

自己理解と他者理解を根底に
岡山操山らしいプログラムが完成

中高貫の一期生が高校へ進学する05年から、同校は単位制に移行する。同時に学校設定科目として「コミュニケーション」が誕生し、弁論やディベートなどが取り入れられた。

07年、武内洋一学年主任(現教務課主任)が「未来航路で操山独自のしっかりとしたフレームを作ろう」と提案。武内先生を中心に、1年次の担当教員が、それまでの取り組みを整理し、またコミュニケーションの授業を未来航路に合体させ、今の未来航路の原型を作った。08年にも若干の見直しを加え、1年次では職業研究、学部学科研究などの進路学習と、弁論・ディベートなど、2年次では修学旅行や系統別課題研究などを実施するという、今の形に落ち着く。足かけ8年、多くの先生方の知恵と経験が詰め込まれたプログラムが完成したのである(図2)。

「職業研究や学問研究などの通常の進路学習のなかに、コミュニケーション関連のプログラムが混ざり、つぎはぎだらけの印象があるかもしれません。けれども、根底



School Data

普通科単位制 / 1900年創立
 生徒数 / 生徒数832人(男子377人・女子455人)
 進路状況(2010年度実績) / 大学77.0%・短大1.5%・
 専門学校等1.1%・就職0.4%・その他20.0%
 岡山県岡山市中区浜412
 TEL 086-272-1241
 URL http://www.sozan.okayama-c.ed.jp/

Outline

JR岡山駅からほど近い場所にある、県内でも有数の進学校。岡山操山高校としての誕生は1949年だが、前身の高等女学校から数えると、110年を超える歴史をもつ。2002年に県下初の県立中学校である岡山操山中学校が併設され、併設型中高一貫校となり、その1期生が高校へ入学した2005年に単位制教育課程へと改編した。併設中学から120人が、他校から160人が岡山操山高校に進学し、1学年280人が共に学ぶ。

図2 未来航路年間計画(2010年度)

学期	実施日	1年次		
		テーマ	具体的な学習内容	
1	4	9	高校生活 高校生活を始めるにあたって	
		12	高校の学習 英・数・国の学習法	
		13	高校の生活 高校生活を始めるにあたって	
		14	クラス討議準備など	
	5	21	仲間作り、自己理解 宿泊研修のわらい・注意点	
		22	クラス討議 講演	
		23	スタンツ創作・校歌練習	
		24	野外活動	
	6	28	職業研究 職業領域の研究	
		12	英語の履修ガイダンス	
		26	弁論ガイダンス	
		2	弁論 弁論文作成	
		8	クラス内発表→グループ代表者決定	
		9	学問研究 実力テスト対策	
2	15	弁論 弁論クラス代表決定		
	16	大学入試について・進路希望調査		
	23	学問研究 学問研究レポート作成・系統別決定		
	30	職業研究・オープンキャンパス説明		
	14	弁論 学年弁論大会		
	16	1学期のまとめ アンケート「保護者の回答」の感想		
	8	18	卒業生と語る会	
	15	15	OCレポ作成・学問研究レポート作成	
3	21	21	文理選択・入試科目について	
	22	22	文理選択について	
	10	6-13	系統別(グループ)発表準備	
	10	27	系統別(グループ)発表会	
	11	10	10	ディベート講演会
		17	17	ディベート実践①(シナリオディベート)
	12	24	24	ディベート実践②(マイクロディベート)
		1	1	ディベートクラス内対抗→代表者決定
		15	15	1年生クラス対抗ディベート大会
		21	21	2学期まとめ アンケート
3	12	12	異文化理解 韓国文化・ハンブル講演	
	19	19	系統別課題研究オリエンテーション(2年生の研究から学ぶ)	
	26	26	2年生の未来航路発表会に参加	
	2	2	論文の書き方	
	9	9	研究テーマの決定	
	16	16	異文化理解 韓国・東京行き先別説明会	
	3	8	8	1年間のまとめ アンケート
	2年次			
学期	実施日	テーマ	具体的な学習内容	
1	4	14	系統別課題研究 系統別課題研究	
		21・28	修学旅行 班別自主研修計画	
	5	12-26	系統別課題研究 系統別課題研究	
		2	異文化理解 韓国文化・ハンブル講座	
		9	修学旅行事前研修	
		15-18	修学旅行 学校交流、班別自主研修など	
	2	23	修学旅行 修学旅行報告レポート作成	
		30	系統別課題研究 系統別課題研究中間発表	
		7	14	系統別課題研究 系統別課題研究中間発表(岡山大学との連携)
		9	15	系統別課題研究 系統別課題研究
3	21-22	水曜67講演	進路学習と科目選択説明会	
	10	6-13-27	系統別課題研究 系統別課題研究	
	11	17	系統別課題研究 系統別課題研究レポート完成	
		24	系統別の発表会①	
	12	1	系統別の発表会②(代表者決定)	
		12-19	系統別課題研究発表準備	
3	1	26	未来航路発表会 系統別課題研究発表会	
	2	2	学習の総括と志望理由書の作成	
	16	2	2	志望理由書の作成
		16	16	16

には一貫して自己理解と他者理解という共通項が流れています。これまで伝統としてあったもののなかに新しい要素を取り入れた独自のプログラムです」と、進路指導主事の守本哲也先生はいう。

現在では、未来航路は未来航路プロジェクト委員会という独立した組織で取りまとめられている。毎年の教材や指導案はサーバーに保存され、新年度には前年の反省や新学年団の意向をふまえ、バージョンアップしてゆく。「学年のカラーは残しつつも委員会が中心になっています。これで、教員の異動があっても未来航路を効果的に続けていける体制が整ったと思います」と、プロジェクトの委員長である渡邊達哉先生。先生方は、形骸化することのないよう、時代や生徒のニーズに合わせてプログラムの内容をしなやかに変化させていきたいとも考えているようだ。

キャリア教育においても仲間作り、集団作りを重視

では、具体的に現在の未来航路の中心を見てみよう。まず、弁論やディベートのほかに宿泊研修での仲間作りや異文化理解など、「コミュニケーション能力の育成に重点を置いたプログラムがいくつ含まれている。これらをキャリア教育として未来航路に含めた理由を主幹教諭の三浦隆志先生(現岡山操山高校)はこう語る。「キャリア教育とは生き方を学ぶもの。生きるうえで他者を認めてさまざまな集団の一員になれることは大切です。未来航路では、生徒たちが自分で考え自分で行動できる『いい集団』を作りたい。弁論やディベートはそのためのきっかけでもあるんです」。

同校の入学生は、併設の岡山操山中学から120人、その他の中学から160人

図1 中高の接続

学校	学年	区分	学習の位置づけ	教科・科目	総合学習	特別活動
岡山操山高等学校	3	発展期	個性や才能の一層の伸長	操山システム 夢実現型単位制	未来航路プロジェクト	自己の生き方に基づいた進路学習 異年齢集団の交流による学習
			進路選択と進路実現	選択科目 個性・才能の伸長や進路希望に応じた多様な教科・科目		
	1	充実期	新しい友との出会いによる視野の拡大と自己啓発の推進	共通科目 習熟度に応じた進度の選択		
			幅広い知識の習得と個性に応じた探求的学習の推進	レクチャー(5教科の選択) チャレンジ (芸術体育の選択) クリエイト 高校教員とのT.T		
岡山操山中学校	2	基礎期	学び方の習得と主体的学習の確立	必修教科		
			自己理解の推進	数学・英語の全授業をTTまたは少人数授業		
	1					

※2010年度までのもの

図3 ワークシート(「弁論大会に向けて」) ダウンロード可

1. 題材選定・主題を考える

題材 …について	
主題 最も伝えたいこと	

2. 構成を考える

① 素材の収集
選んだ題材についてどのようなことを書くか。自分の意見や出来事、体験などを簡単に思いつく限り記入する。

② 構成を考える
どのような順序で書くか。述べたいことに見出しを付け、素材の配慮を明示する。

序論		
本論		
結論		

という構成になる。4月の宿泊研修では、クラス討議など未来航路の最初の取り組みが行われるが、この280人がつの集団として船出する大切な第1歩だ。生徒たちが集団を形成していく過程もまた、キャリア教育の一つなのである。

また、中学までとは違う高校ならではの高度なコミュニケーションを学ばせるため、弁論やディベートではワークシートを徹底的に活用し、型のなかでの論理構成を学びながら自分の主張を作ること比重を置いている(図3)。「不自由だという生徒もいます。けれども基本の型のなかで自己表現し、制約のなかで個性を輝かせることを学んでほしい。それは大学に行っても社会に出ても役立つはず」と守本先生はいう。

クラスメートの前で自分の意見をはっきり述べることでできるのが中学生までの

目標。高校生の弁論では、問題提示↓具体例・自分の考え↓主張のまとめという構成をきちんと立てさせる。また、聴いてもらうための効果的な表現を工夫させる。そして発表の際は、論旨、態度、感銘度の3項目で審査する。

こういった学習を繰り返すことで、コミュニケーション能力や表現力が身につくだけでなく、自分を客観視することや、知的なものの見方ができるようになってくるのである。

**保護者や卒業生の声を
進路学習に活用する**

未来航路のもう一つの流れとして、進路実現へつなげていくための進路学習がある。1年次で最初に行う職業研究では、保護者に職業についてのアンケート(図4)

図4 職業に関するアンケート ダウンロード可

1. ご職業(業種)をご記入ください。

2. その職業を志した理由・きっかけ・動機などについて教えてください。可能ならば、高校時代から思い起こしていただければ幸いです。

3. その職業の楽しさや・やりがいを教えてください。

4. その職業の厳しさについて教えてください。

5. その職業に就くには、どのような勉強が必要でしょうか。また、取得すべき資格がありますか。

6. 上級学校に進学する場合は、どのような学部・学科が向いていると思われますか。

7. どのような人が向いている(性格など)と思われますか。

8. ご自身の職業観や1年生に対するメッセージがあればお願いします。

ご協力ありがとうございました。
※下記は、差し支えなければご記入ください。冊子にお名前を載せることはありません。空欄のままでも結構です。

御芳名 ()
生徒氏名 () 1年()組

に答えてもらい、それを教材にしている。03年から毎年行っている取り組みで、280人の生徒の保護者に依頼し、毎年100人以上からメールなどで回答が寄せられるそうだ。

「その職業に就くための学部学科や資格なども書いてもらいますが、重要なのはキャリアの道筋や具体的な仕事内容ではなく、保護者の真摯なアドバイスや思いをくみ取ること。アンケートをまとめたものを配るだけで、生徒は集中して読むし、しっかりとした感想も書いてきます」と三浦先生はいう。

また、生の声を教材にするという点では、卒業生の合格体験記も同じだ。「進路の引き」に掲載される数は年々増え昨年度は29人分の体験記が紹介された。「先輩の体験記に励まされた後輩は、自分が依頼されればより一生懸命伝えようと

する。だから、年を追うごとに熱く長い文章になっています」と渡邊先生。モチベーションアップの方法などメンタルな部分はもちろん、過去問題35年分に取り組んだなど具体的な学習法を書いている卒業生も多く、教員の参考にもなる。

**これまでの学びの集大成
系統別課題研究**

1年次は弁論、ディベート、職業研究、学問研究など多彩なプログラムだが、2年次になると、未来航路のほとんどの時間は系統別課題研究に費やされる。

自分の興味関心を突き詰めていく課題研究は、職業研究から学問研究への流れの先にあるのと同時に、弁論やディベートで養った知性にさらに磨きをかけながら進めていく学習。つまり、これまで学んで

